

# 課題整理総括表

利用者名 神谷 花子 様

自立した日常生活の 阻害要因 (心身の状態、環境等)		①脊柱管狭窄症等による痛みがあり、歩 行不自由				②もの忘れがある			③膝の痛みと段差があり、またぐのがつらい									
		④夫が家事・介護未経験				⑤布団のため、寝起きが困難												
状況の事実 ※1		現在 ※2				要因※3	改善/維持の可能性※4			備考(状況・支援内容等)								
移動	室内移動	自立	見守り	一部介助	全介助	①③④⑤	改善	維持	悪化	・段差があり介助を必要な場合がある。								
	屋外移動	自立	見守り	一部介助	全介助	①③④	改善	維持	悪化	・あまり外出していない。								
食事	食事内容	支障なし 支障あり					改善	維持	悪化	・味付けが以前と変わったと言われ、最近し てない。 ・夫が惣菜を買ってくる。朝食は夫が用意。								
	食事摂取	自立	見守り	一部介助	全介助		改善	維持	悪化									
	調理	自立	見守り	一部介助	全介助	①②	改善	維持	悪化									
排泄	排尿・排便	支障なし 支障あり					改善	維持	悪化				・時に飲み忘れがある。娘が土・日に確認。 ・浴槽のまたぎが不自由。 ・靴下の着脱に介助が必要。 ・長女が土・日に行っている。 ・長女が土・日に行っている。 ・長女が土・日に行っている。					
	排泄動作	自立	見守り	一部介助	全介助		改善	維持	悪化									
口腔	口腔衛生	支障なし 支障あり					改善	維持	悪化							・同じ質問を繰り返す。タンスや手提げ袋の ものを出したり入れたり確認しているときが ある。 ・ハイキング仲間の町田さん、保育園の教え 子が最近こなくなった。		
	口腔ケア	自立	見守り	一部介助	全介助		改善	維持	悪化									
服薬		自立	見守り	一部介助	全介助	②	改善	維持	悪化	・長女が土・日に行っている。								
入浴		自立	見守り	一部介助	全介助	①③④	改善	維持	悪化									
更衣		自立	見守り	一部介助	全介助	①④	改善	維持	悪化									
掃除		自立	見守り	一部介助	全介助	①④	改善	維持	悪化									
洗濯		自立	見守り	一部介助	全介助	①④	改善	維持	悪化									
整理・物品の管理		自立	見守り	一部介助	全介助		改善	維持	悪化				・長女が土・日に行っている。					
金銭管理		自立	見守り	一部介助	全介助	①②	改善	維持	悪化									
買物		自立	見守り	一部介助	全介助	①②	改善	維持	悪化									
コミュニケーション能力		支障なし 支障あり					改善	維持	悪化	・段差があり介助を必要な場合がある。								
認知		支障なし 支障あり				②	改善	維持	悪化									
社会との関わり		支障なし 支障あり				①	改善	維持	悪化									
褥瘡・皮膚の問題		支障なし 支障あり					改善	維持	悪化									
行動・心理症状(BPSD)		支障なし 支障あり					改善	維持	悪化									
介護力(家族関係含む)		支障なし 支障あり				④	改善	維持	悪化									
居住環境		支障なし 支障あり				①③	改善	維持	悪化	・段差があり介助を必要な場合がある。								
							改善	維持	悪化									

※1 本書式は総括表でありアセスメントツールではないため、必ず別に詳細な情報収集・分析を行うこと。なお「状況の事実」の各項目は課題分析標準項目に準拠しているが、必要に応じて追加して差し支えない。

※2 介護支援専門員が収集した客観的事実を記載する。選択肢に○印を記入。

※3 現在の状況が「自立」あるいは「支障なし」以外である場合に、そのような状況をもたらしている要因を、様式上部の「要因」欄から選択し、該当する番号(丸数字)を記入する(複数の番号を記入可)。

※4 今回の認定有効期間における状況の改善・維持/悪化の可能性について、介護支援専門員の判断として選択肢に○印を記入する。

作成日 平成30年4月21日現在

利用者及び家族の生活に対する意向	本人：夫とこの家で暮らしていきたい。家族や教え子たちとお菓子を作ったり、友人とハイキングにも行きたい。 夫：妻が望む暮らしをかなえてあげたい。自分は大工なので、妻が暮らしやすくなるように、住宅を改修したりして工夫したい。		
見 通 し ※5	生活全般の解決すべき課題（ニーズ）【案】	※6	
痛みを軽減することで、以前のような移動や家事動作に戻る可能性がある。  低栄養や脱水を防ぐことで、体調が改善し、活動的に過ごすことができる可能性がある。         痛みの軽減、歩行の安定が図られれば、友人や教え子などとの交流の快復が見込まれる。  家事や介護が未経験な夫が方法などを理解し、指導助言を受けることができれば、夫婦二人での生活もしやすくなる可能性が出てくる。 住宅の環境が移動しやすくなれば、自立できる部分も出てくる。	病状が安定し、健康に生活ができる。	1	
	転倒の心配がなく歩けるようになりたい。	2	
	好きなお菓子作りをしたり、友人とハイキングに行ったりして、楽しみのある生活がしたい。	3	

※5 「要因」および「改善/維持の可能性」を踏まえ、要因を解決するための援助内容と、それが提供されることによって見込まれる事後の状況(目標)を記載する。

※6 本計画期間における優先順位を数字で記入。ただし、解決が必要だが本計画期間に取り上げることが困難な課題には「－」印を記入。